

第8回環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 採点基準 - 3（持続可能性報告賞）（平成16年版）

基本的に採点を考え、3・2・1・0を付すこととする。ただし、小数点以下、一桁も可とする。
レベル判定については下記の例示的レベルだけでなく、各種ガイドラインや憲章などの記載項目をベースにして判定する。

1) 経営者コミットメントと仕組み MAX：30点

経営責任者のコミットメント (10点)

「3」 持続可能な社会形成についての確実なコミットメントと、経営資源配分等の約束が入っている、等

「2」 環境以外についてのコミットメントはあっても抽象的である、等

「1」 地球環境問題等一般論を述べておりコミットメントが明確でない、等

「0」 コミットメントなし

サステナビリティの認識 (10点)

「3」 サステナビリティについて深い認識が表明されている、等

「2」 企業の持続可能性の認識はしめしているが、社会の持続可能性認識にまでは広がっていない、等

「1」 サステナビリティを狭く解し、環境技術開発的発想にとどまっている、等

「0」 記載なし

CSR マネジメント体制の構築等 (10点)

「3」 CSR 推進体制を明確にし、グループ全社的に動かす仕組みが詳細に記載されている、等

「2」 CSR 推進体制を構築しようとしている経過が記載されている、等

「1」 CSR 推進体制の構築の必要性が認識されている、等

「0」 記載なし

2) 社会・経済性側面に関わる内容 MAX：50点

社会性側面

雇用・労働 (7点)

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

人権（人権保護、ILO 重点4分野、等々） (7点)

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

地域社会・公正取引 (7点)

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

製品責任・顧客満足 (7点)

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

その他の社会性項目 (5点)

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

- その他(社会貢献への取組、受賞歴や、自ら運用する年金のSRI取組、等 (7点)
- 「3」 上記のかなりについて、方針と実績についての記載あり、等
 - 「2」 上記の一部の実績についての記載あり、等
 - 「1」 上記について断片的な記述の記載あり、等
 - 「0」 記載なし

経済的側面

- 財務報告を超えた経済的側面の開示、および指標等についての工夫等 (10点)
- 「3」 持続可能性についての経済的側面について指標を工夫し、豊富な記述を記載している、等
 - 「2」 上記の一部や経済効率等についての記載あり、等
 - 「1」 定性的に若干の記載あり、等
 - 「0」 記載なし

3) ステークホルダー・コミュニケーション MAX: 10点

ステークホルダー・コミュニケーションへの取組 (10点)

- 「3」 地域のみならず、多様なステークホルダーとのステークホルダー・コミュニケーションの方針と実績が示され、会社側の対応まで記載されている、等
- 「2」 考え方と実績の記録が記載されている、等
- 「1」 地域との交流等、わずかな取組の記載あり、等
- 「0」 記載なし

4) 総合評価 MAX: 10点

上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。 以上